

## 理事長・学長会見を行いました (3月13日)

2022年に4年ぶりに復活した理事長・学長会見を、今年も市ヶ谷の日本大学本部で行いました。組合からは、友田執行委員長、村上書記長、高橋副執行委員長、谷執行委員、田極書記局員が出席しました。理事長・学長が多忙だということで、わずか20分という短い時間でしたが、以下、その要旨を紹介します。

### (1) 労働条件に関する理事会での審議状況について

組合：理事会に団交の様子や、春闘要求に対する回答について労務専門委員会で審議された結果が、どの程度理事長・学長に伝わっているのかがよくわからない。例えば、コロナ手当の支給を要求したところ、団交では、労務専門委員会で審議しただけで議論の結果は理事会に報告していないと説明されたが、どの程度、理事長・学長に伝わっているのか。

林（理事長）：理事会の議事録（要旨）はホームページでも公開しているのでご覧になっていると思うが、皆様方のこと（注：組合の要求のこと）は、人事部を通して（連絡が）来ているので、皆様方のおっしゃっていること（組合の要求）が全て理事会の議題になるかというところとわかりかねる。

澤田（本部人事部給与課長）：担当課長として補足すると、春闘要求書や団体交渉のさまざまな議論を全てもれなく理事長・学長と共有するのは難しいので、適宜、人事部として必要と思われることを共有している。

組合：例えば、コロナ手当を支給しないと決めたということは、理事長には伝わっているのか。

澤田：団体交渉でも説明したが、その点については理事長にご相談していない。団交で、労務専門委員会で判断したと説明したとおりである。この場は交渉の場ではないので、和やかな雰囲気をお願いしたい。

組合：理事長に伝わっていないということについて、理事長はどのようにお考えなのか。

林：人事部（職員）とは毎日、会っているので、必要なことは伝えてもらっていると考えている。人事部で解決できることはそこで解決して、さらに難しい問題が私のところに来ていると理解している。

### (2) ハラスメント対策

組合：昨年の会見でも組合はパワハラ問題について心に留めておいて欲しいとお願いしている。その後もハラスメントはなくなっていない。理事長にも届いていると思うが、組合にも（被害の）訴えが届いている。組合で実施したアンケートでも、ハラスメントの実態が明らかになっている。この問題を正していくために、どのような施策を考えているか。

林：ハラスメントに関する報告は絶えず聞いている。大学にはコンプライアンス事務局があり、看護師も常駐している。組合は不満があるかもしれないが、前回の会見で「心に留めておく」と申したとおりにしているつもりである。皆さんが考えている以上に、ハラスメント問題についての情報は私のところに寄せられていて、一つひとつ人事部長やコンプライアンス事務局と相談して対応しているつもりである。

組合：組合で行ったアンケートの結果からは、コンプライアンス事務局が信用されていないという実態が浮かび上がっている。人権相談学外受付窓口の担当弁護士が日本相撲連盟の評議員をしているが、相撲連盟といえば田中元理事長のことが想起され、教職員が相談しにくい面もあるので、弁護士の交代を検討して欲しい。

林：その点は誤解されている点があると思っている。評議員をしているからといって（田中元理事長と）関係があるとは言えない。この点について調べてもらったが、全くそのようなことはないと報告を受けている。日本大学と相撲は切っても切れない関係があるが、今回、大相撲のマス席の買い取りは、費用もかかるので全て廃止した。そのくらい神経質に、前体制との関係について誤解を招かないように一つひとつ対応している。正しく理解してほしい。

組合：組合としては説明を受けて理解できることもあるが、いろいろな人が納得できるように対応してほしい。

林：私も相撲が好きなのでマス席で観戦できることを楽しみにしていたが、正しく理解してほしい。（※組合注 大相撲のマス席を発売しているのは、「日本相撲協会」で、田中元理事長が理事をしていたアマチュア相撲団体の「日本相撲連盟」とは異なります。）

### (3) 付属校における教職員の長時間労働

組合：付属校では、多くの教員が生徒のために、教材研究、部活動など一生懸命働いている。夜遅くまで残って勤務している教員が多数である。組合では、部活動のあり方の改善や専任教員の増員などを要求してきた。今回、付属校に勤務する非常勤講師の5年ルールの内容付緩和や常勤講師の給与の増額などの改善がなされたことには感謝している。その次の段階の取り組みをどのように考えているか。

林：感謝の言葉をお聞きして嬉しく思っている。いろいろと考えていることはあるが、ここでは回答できないので、差し控えたい。

組合：現場ではほとんどの教員が頑張っているという実態を理解してほしい。

林：それはもちろんなので、ご安心いただきたい。

### (4) 中期計画の見直し

組合：日本大学は現在、中期計画の見直しをしているところだが、見直しのスケジュール、見直しに当たってどのように教職員の意見を反映させようとしているのかを説明してほしい。

酒井（学長）：昨年9月に中期計画を見直した。その後は、学生・生徒の教育サービスの充実・健康管理を第一に考えて見直しを進めている。その結果、教学DX、部科校連携、ダイバーシティ、未来構想という新しいプロジェクトを立ち上げて検討している。この時期は期末で、成果を取りまとめて次年度に反映していく。計画の見直しは、随時、柔軟に対応していく。大事なものは、結果として、学生・生徒の教育環境をいかに整備するかということにある。

組合：中期計画自体を変えるのではなく、中期計画をもとに個別の事案ごとに対応していくという意味か。

酒井：必要に応じて適切かつ柔軟に対応していくということだ。必要なら計画を見直すこともある。時代は刻々と変化しているので、それに合わせて柔軟に対応していくことが重要だと考えている。理事長も学長も今期の評価を受けることになっている。透明性を高めるために情報公開を行っている。理事会の議事録の概要も公開している。そうした情報で判断してほしい。

最後に組合から、「組合のアンケートによれば、理事長に対する期待は大きいので、大変だと思うがご奮闘を期待している。組合からも意見を述べるので、その意見も参考にしてほしい」と述べて会見を終了しました。

以上

日本大学教職員組合の活動などは以下のホームページでご覧いただけます。また、ご意見、ご加入に関するお問い合わせは以下のメールアドレスまでお願いいたします。

日本大学教職員組合ホームページ <a href="https://union-nihon.sakura.ne.jp">https://union-nihon.sakura.ne.jp</a>	Eメール nichidai.kumiai@gmail.com
	